

長期投資家の皆様へ

先進各国の金利が低水準に維持されたまま、世界同時好況と言われるグローバルな景気拡大基調が続く中で、一本調子に世界全体の株価が押し上げられる「適温相場」が昨年来続いて来ましたが、2月に入るや米国金利上昇を機に状況が一変しました。

2月第一週だけで世界の株式時価総額は6%（約5兆ドル）もの減少となり、不意を突かれた相場下落に適温を前提とし楽観が支配していたマーケットには、下落幅以上の衝撃が走ったようです。

確固たる歴史的事実として、ずっと上がり続ける相場はないわけで、今回の下落も一方向に上昇し続けたヒートアップの調整作用でしょう。国内の個人投資家動向を振り返ると、年明けからの大きな上昇局面で資金投入へと向かった投資家がどっと増えていましたが、おそらく右肩上がり前提に慌てて飛び乗った俄か投資家が多数含まれていることでしょう。今回「こんなはずじゃなかった」ともう狼狽売りにして早々退場してしまった投資初めてさんも結構いるとしたら実に残念なことです。

適温相場は終了したのでしょうか。これから暫し相場は振れ幅が大きいまま上下を繰り返すのかもしれませんが。株式市場は充分割安になったという有識者コメントも見られますが、理論的に割安になったから必ずしもすぐに価格が素直に反応するとは限らず、暴落第二波、第三波が来ることは過去いくらでもあったことで、目先の相場を当てることは困難です。

「セゾン号」は目先の相場動向を、大波も小波もノイズとして受け入れています。本物の長期投資とは成長が想定出来る投資対象にお金を働かす行動であり、長期的成長軌道は調整相場とは無関係です。

晴れの日も雨の日も、風向きが変化しようとも「セゾン号」の長期投資スタンスは揺らぎなく、世界経済の成長軌道をしっかり捉えて進み続けます。

代表取締役社長 中野 晴啓

今月の市場動向

世界の株式市場についての概況

株式市場は、下落しました。

序盤、米国の雇用統計で賃金の伸びが予想を上回ったことをきっかけに、物価上昇への警戒が強まり、米国の長期金利が上昇したことを受けて、低金利による運用難により債券市場から株式市場へ流入していた資金が流出するとの警戒が広がって大きく下落し、その後も、米国の税制改革による財政赤字の拡大観測を背景に長期金利が高止まりするなかで、株式市場の下落が続きました。

中盤にかけては、株式市場が急激に下落したことを受けて、株式市場の低変動を見込んで株式市場に流入していた資金が流出することへの懸念が高まるなかで、イギリスで利上げ観測が強まったこともあって一段と下落しましたが、その後は米国の消費者物価指数が予想を上回る伸びとなるなかでも金融引締めへの警戒が広がらず、長期金利の上昇も限定的なものとなったことから、安心感が広がって上昇基調となりました。

終盤にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録の公表を経て、米国で利上げ観測が高まって軟調に推移し、その後はパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会証言を受けて利上げ観測が一段と高まったものの、長期金利が落ち着いた動きとなったことから不安は広がらず、底堅い展開となりました。

2 月度の商品価格の動向

	終値	騰落率
NY 原油先物（WTI／直近限月）／1 バレル	61.64 ドル	-4.77%
NY 金先物（中心限月）／1 トロイオンス	1317.9 ドル	-1.88%

金融緩和環境が長期間維持されていることを背景に世界的に株式市場の変動が小さくなったことから、ここ数年のデータを基にして見積もった株式市場のリスクが過小評価であることに対する懸念は根強く、リスクの評価が見直されることにより、株式市場からの資金流出が発生することへの警戒が強まっています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

2 月度の市場動向について

米国株式

米国の株式市場は、下落しました。

序盤、ISM 製造業景況指数が予想程には低下せず、安心感が広がって堅調な展開となる局面もあったものの、雇用統計で平均時給が予想を上回る伸びとなったことをきっかけに、労働市場の逼迫による物価上昇に対する警戒が強まり、長期金利が上昇したことを受けて、株式市場からの資金流出への警戒が強まって下落しました。

その後は、税制改革による景気の拡大観測や財政赤字の拡大による国債発行額の増加観測を背景に長期金利が高止まりするなかで下落基調となり、中盤にかけては米国の株式市場の変動の大きさに対する市場参加者の見方を表す代表的な指数が高い水準で推移し、株式市場の価格変動リスクへの警戒が強まったことを背景に株式市場からの資金流出に対する懸念が高まり、一段と下落しました。

中盤には、消費者物価指数が予想を上回る伸びとなったものの、同時に発表された小売売上高が予想を下回る伸びとなったこともあって物価上昇が加速するとの見方が高まらず、長期金利が限定的な上昇に留まったことから、安心感が広がって反発に転じました。

終盤には、連邦公開市場委員会（FOMC）議事録の公表を経て、3月に利上げが行われるとの見方が強まったことから軟調に推移し、その後はパウエル連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会での証言を受けて利上げ観測が一段と高まったものの、長期金利が落ち着いた動きとなったことから、底堅い展開となりました。

2 月度の主要指数の概況

	終値	月間騰落率
ダウ・ジョーンズ工業株価平均（米ドル）	25029.20	-4.28%
S&P500（米ドル）	2713.83	-3.89%
ナスダック総合指数（米ドル）	7273.009	-1.87%

米国では、消費者物価指数と生産者物価指数の伸びが予想を上回る伸びとなったほか、企業の景況感調査でも仕入価格を示す指数が高水準で推移しており、物価の上昇観測が高まってきています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

欧州株式

欧州の株式市場は、下落しました。

序盤、米国で長期金利が上昇したことを受けて、欧州でも長期金利が上昇し、金融緩和の縮小や株式市場から資金が流出することへの警戒が高まって下落しました。その後は欧州の長期金利が低下したことから、落ち着きを取り戻して反発に転じる局面もありましたが、中盤にかけては、株式市場での価格変動率が拡大してリスクを避ける動きが強まり、株式市場からの資金流出が進むことへの懸念が高まるなかで、イングランド銀行（BOE）が金融政策委員会（MPC）後の声明で早期の政策金利の引き上げの可能性を示唆したことを受けて、金融引締めへの警戒が高まり、一段と下落しました。

中盤には、米国で物価の上昇が確認されるなかでも長期金利の伸びが限定的であったことから急激な金利上昇への警戒が和らぎ、安心感が広がったことを受けて反発に転じましたが、長期金利の上昇観測が後退したことを背景に為替市場でドルが下落し、ユーロなどの欧州通貨が対ドルで上昇したことから、上昇には力強さを欠く展開となりました。

終盤には、ユーロ圏の企業の景況感を示す指数が予想以上に低下したことを受けて、先行きへの明るい見方が後退したものの、米国の長期金利が落ち着いた動きとなったことを背景に堅調な展開となりました。

2 月度の主要指数の概況

	終値	月間騰落率
独 DAX 指数（ユーロ）	12435.85	-5.71%
仏 CAC 指数（ユーロ）	5320.49	-2.94%
英 FT100 指数（英ポンド）	7231.91	-4.00%
スイス SMI 指数（スイスフラン）	8906.38	-4.60%
MSCI Europe 指数（ユーロ）	128.02	-4.08%

イギリスでは消費者物価指数の伸びが、イングランド銀行（BOE）が目標としている 2%を超える状況が 1 年間継続していることから、近い将来に政策金利の引き上げが行なわれるとの見方が強まっています。

日本株式

国内の株式市場は、下落しました。

序盤、世界的に景気の先行きに対する明るい見方が広がるなかで円安基調となり、上昇する局面もあったものの、その後は米国の雇用統計で賃金の上昇が確認されたことをきっかけに米国の長期金利が上昇したことを受けて、世界的に株式市場が下落するなかで、リスクを回避する動きが強まって為替市場で円高となったことから、大きく下落しました。

中盤にかけては、株式市場の変動が大きくなったことを受けてリスクを避ける動きが強まり、株式市場からの資金流出が進むことへの懸念が高まるなかで、為替市場で円高基調が続いたこともあって下落基調となり、中盤には米国の急激な金利上昇への警戒が和らいで落ち着きを取り戻したものの、海外との金利差拡大観測が後退したことを背景に、為替市場で円高基調が継続したほか、10・12 月期の GDP がやや予想を下回る伸びに留まり、景気の先行きに対する明るい見方が後退したことから、軟調な展開となりました。

中盤以降は、リスクを回避する動きが一段落して、海外の株式市場が反発に転じたことを受けて、国内の株式市場も反発に転じ、終盤にかけては、政府が金融緩和の推進を後押しする日本銀行の正副総裁人事案を示したことを受けて金融緩和の長期化観測が広がって上昇しましたが、その後は円高への警戒が根強いことを背景に、力強さを欠く展開となりました。

2 月度の主要指数の概況

	終値	月間騰落率
日経平均株価指数 (円)	22068.24	-4.46%
TOPIX[東証株価指数]	1768.24	-3.73%
MSCI Japan 指数 (円)	1048.42	-3.75%

日本銀行の黒田総裁が再任される見通しとなったことで、現状の金融政策が維持されるとの見方が広がっていますが、更なる金融緩和の拡大は困難な状況となっていることから、為替市場では円高が進行しやすい状況となっています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

太平洋株式（日本を除く）

太平洋地域（日本を除く）の株式市場は、下落しました。

序盤から、米国の長期金利が上昇するなかで、太平洋地域の株式市場からの資金流出への懸念が強まっていることを背景に軟調な展開となり、その後は米国の雇用統計で賃金の伸びが予想を上回ったことをきっかけに、米国の長期金利が一段と上昇し、資金流出への懸念が一段と高まったほか、オーストラリアの小売売上高が予想を下回る伸びに留まり、景気の先行きに対する不透明感が広がったことから、一段と下落しました。

中盤にかけては、世界的に株式市場の変動が大きくなったことを受けて、リスクを避けて株式市場から資金が流出することへの懸念が高まって軟調に推移したものの、中盤には米国で消費者物価指数の伸びが予想を上回るなかでも米国の長期金利の上昇が限定的なものとなり急激な金利上昇への警戒が和らいだほか、オーストラリアで雇用の堅調さが確認され安心感が広がったことから、反発に転じました。

中盤以降は、米国の長期金利が急上昇することへの警戒が和らぐなかで、太平洋地域の株式市場からの資金流出への警戒が和らいで堅調な展開となり、終盤には米国の金融引締めへの警戒や中国経済の先行きに対する懸念が強まったものの、米国の長期金利が落ち着いた動きとなったことから、混乱への警戒が和らいで底堅い展開となりました。

2 月度の主要指数の概況

	終値	月間騰落率
MSCI Pacific ex-Japan 指数 (米ドル)	1420.75	-3.71%
S&P/ASX200 指数 (豪ドル)	6015.959	-0.36%
香港ハンセン指数 (香港ドル)	30844.72	-6.21%
シンガポール ST 指数 (シンガポールドル)	3517.94	-0.45%

香港ドルは、米国ドルとのペッグ（連動）制を採用していることから、金融政策が米国と連動しており、米国で金融引締めへの警戒が高まっていることから、香港でも金融引締めへの警戒が高まっています。

2 月度の市場動向について

新興国株式

新興国の株式市場は、一部の国を除いて下落しました。

序盤、米国の長期金利が上昇し、新興国の株式市場からの資金流出への懸念が高まるなかで、インドで株式投資の値上がりにより得た利益への課税を強化する方針が示され懸念が拡がったこともあり、下落基調となりました。その後は、米国の雇用統計で賃金の伸びが予想を上回ったことをきっかけに、米国の長期金利が一段と上昇し、資金流出への懸念が一段と高まったことを受けて下落基調が継続しました。

中盤にかけては世界的に株式市場の変動が大きくなったことを受けて、新興国の株式市場の価格変動リスクに対する見方が厳しくなり、リスクを避ける資金が新興国の株式市場から流出することへの警戒が高まったことから、軟調な展開が継続しましたが、中盤には米国で消費者物価指数の伸びが予想を上回るなかでも米国での長期金利の上昇が限定的なものとなり急激な金利上昇への警戒が和らいだことから、落ち着きを取り戻して反発に転じました。

中盤以降も、米国の長期金利は比較的高い水準で推移しているものの、落ち着いた動きとなったことから新興国の株式市場からの資金流出への警戒が和らいで堅調な展開となりました。

終盤にかけては、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録の公表を経て、米国での利上げ観測が高まったものの、米国の長期金利が引き続き落ち着いた動きとなったことから、混乱への警戒が和らいで堅調な展開となりました。しかし、終盤にはパウエル米連邦準備制度理事会（FRB）の議会での証言を受けて米国の利上げ観測が一段と高まったことや中国で製造業の景況感を示す指数が予想以上に低下して中国経済の先行きに対する懸念が高まったことから、やや軟調な展開となりました。

2 月度の主要指数の概況

	終値	月間騰落率
MSCI Emerging 指数（米ドル）	1195.19	-4.73%
ブラジルボベスパ指数（ブラジルレアル）	85353.59	+0.52%
中国上海指数（中国元）	3259.408	-6.36%
韓国総合株価指数（韓国ウォン）	2427.36	-5.42%
台湾加権指数（台湾ドル）	10815.47	-2.60%
ロシア RTS 指数（米ドル）	1285.47	+0.24%
S&P/BSE SENSEX 指数（インドルピー）	34184.04	-4.95%
南アフリカ全株指数（南アフリカランド）	58325.09	-1.98%

米国が長期間に金融緩和策を維持してきたことで、比較的容易に低いコストで米国ドルの調達を行うことが出来る状況が続いていましたが、米国で金融緩和の早期縮小への警戒が高まっていることから、新興国のドル建て負債の利払い負担の増加が、新興国経済に与える影響への懸念が高まっています。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

世界の債券市場についての概況

前月末に米国で税制改革法案が成立したことを受けて、米国で景気が加速して物価が上昇するとの見方が広がったほか、財政赤字が拡大することにより国債の発行額が増加するとの見方が広がって米国債が下落しました。ユーロ圏の国債は米国債の下落の余波を受ける形でも軟調な展開となる局面もありましたが、金融緩和環境の長期化観測が維持され堅調な展開となりました。日本国債は日本銀行が長期金利を低い水準に留める姿勢を改めて示しているほか、黒田日本銀行総裁が再任される見通しとなったことから、金融緩和の長期化観測が維持され、終盤にかけて上昇基調となりました。

米国債券市場（国債）

米国の国債市場は、下落しました。

序盤、雇用統計で平均時給が予想以上に上昇したことが確認され物価上昇が加速するとの見方が強まって下落したものの、その後は金利の上昇をきっかけに株式市場が大きく下落したことを受けて安全資産としての需要が高まって反発に転じました。

中盤にかけては、税制改革による減税が行われることにより、財政赤字が拡大して、国債の発行が増大することへの懸念を背景に軟調な展開となり、中盤には消費者物価指数が予想を上回る伸びとなったことを受けて一段と下落したものの、同時に発表された小売売上高が予想を下回る伸びとなったこともあり、景気や物価上昇が加速するとの見方が後退して底堅い展開となりました。終盤には米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録の公表やパウエル連邦準備制度理事会（FRB）議長の議会証言を経て政策金利の引き上げ観測が強まったものの、落ち着いた動きとなりました。

2 月度の長期金利の状況

	利回り	前月比
米 10 年国債	2.861%付近	+0.156%

欧州債券市場（国債）

ユーロ圏ではスペイン国債が下落したものの、ドイツなど主要国の国債やイタリア国債が上昇しました。序盤、米国の雇用統計で賃金の伸びが加速していることが確認されたことをきっかけに米国債が下落したことを受けて、ユーロ圏でも主要国と周縁国の国債が揃って下落しました。その後は落ち着きを取り戻して反発に転じる局面もあったものの、中盤にかけてはイギリスで利上げ観測が高まったことを受けて、欧州でも金融緩和が縮小に向かうとの見方が強まって軟調な展開となりました。中盤以降は米国債が底堅い動きとなったことから、ユーロ圏の国債も落ち着いた動きとなり、終盤には景気の先行きに対する楽観的な見方がやや後退したことや欧州中央銀行（ECB）理事会議事要旨の公表を経て金融緩和の長期観測が維持されたことを受けて、堅調な展開となりました。

2 月度の長期金利の状況

	利回り	前月比
独 10 年国債	0.656%付近	-0.041%

日本債券市場（国債）

日本の国債市場は、上昇しました。

序盤から、米国債が下落基調となるなかで軟調な展開となったものの、その後は日本銀行が指定した利回りで金額に制限を設けずに国債を買い入れる指値オペを7ヶ月振りに通知したことを受けて反発に転じました。中盤にかけては、世界的な株式市場の下落を受けて安全資産としての需要が高まって堅調な展開となり、その後も政府が日本銀行の人事で黒田総裁を再任し、副総裁に量的緩和に前向きな人物を充てる案を提示し、金融緩和の長期化観測が高まったことから、上昇基調が継続しました。

2 月度の長期金利の状況

	利回り	前月比
日 10 年国債	0.053%付近	-0.032%

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

2 月度の市場動向について

世界の為替市場についての概況

為替市場では、景気の先行きへの明るい見方が拡がり利上げ観測が高まったことを受けてドルが堅調な展開となり、ユーロは景気の先行きに対する楽観的な見方がやや後退したことから、ドルに対して軟調な展開となりました。

円は、株式市場の下落を受けてリスクを避ける動きが強まるなかで、海外との金利差が拡大するとの見方が後退して上昇し、対ドル、対ユーロで円高となりました。

ドル・円

円はドルに対して、上昇しました。

序盤、米国で景気の先行きに対する明るい見方が拡がり利上げ観測が高まる一方で、日本では日本銀行が金利の上昇を抑える姿勢を改めて示したことから、金利差が拡大するとの見方が拡がって円安となりましたが、その後は米国での長期金利の上昇をきっかけに世界的に株式市場が大きく下落し、リスクを回避する動きが拡がって円が上昇し、円高に転じました。中盤には、米国の財政赤字の拡大に対する懸念が拡がってドルが下落する一方で、先行きへの不透明感が拡がっていることを背景に円の堅調な展開が続いたことから円高が一段と進行しました。中盤以降は、市場の混乱に対する警戒が和らぐなかでやや円安基調となり、終盤には米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録の公表を経て、米国で利上げ観測が高まって、ドルが堅調な展開となったものの、先行きへの不透明感が根強く、円も堅調に推移したことから、方向感の無い展開となりました。

ユーロ・円

円はユーロに対して、上昇しました。

序盤、ユーロ圏で景気の先行きに対する明るい見方が拡がり金融緩和の縮小観測が拡がる一方で、日本では日本銀行が金利の上昇を抑える姿勢を改めて示したことから、金利差が拡大するとの見方が拡がって円安となりましたが、その後は世界的に株式市場が大きく下落し、リスクを回避する動きが拡がって円が上昇し円高に転じました。中盤以降は、ユーロ圏で景気の先行きに対する楽観的な見方がやや後退したことで、ユーロがやや軟調な展開となる一方で、先行きへの不透明感が根強く、円が堅調に推移したことから、終盤まで円高基調となりました。

2 月度の概況

	レート*	月間騰落率
円／ドル	106.67	-2.29% (円高)
円／ユーロ	130.08	-4.06% (円高)
ユーロ／ドル	1.2195	-1.76% (ユーロ安)

*レートは月末の米国東部標準時間 17 時のものです。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」
運用概況（2018年2月28日現在）

今月のマーケットと投資スタンス

【株式市場】米国での長期金利の上昇をきっかけに途中まで大きく下落したものの、その後は落ち着きを取り戻して下落幅が縮小。

【債券市場】米国債が下落した一方でユーロ圏の国債は堅調。日本国債は金融緩和の長期化観測が高まり上昇。

【為替市場】利上げ観測が高まったドルが堅調な展開となる一方で、ユーロがやや軟調。円は上昇し、対ドル、対ユーロで円高。

【投資スタンス】今月は、株式市場が下落したことを受けて相対的に組入れ比率が上昇した債券ファンドを売却し、株式ファンドを購入することにより、リバランスを行なったほか、定期積立プランなどのご購入により、皆様からお預かりした資金を利用して、定められた投資比率に従って債券ファンド及び株式ファンドへの投資を行いました。

ファンドマネジャーからの一言

今月は、株式に投資するファンドが全て下落したほか、米国債に投資するファンドが下落し、投資先ファンドが基準価額の下落要因となりました。為替は、対ドル、対ユーロで円高となり、基準価額の下落要因となりました。結果、当ファンドの基準価額は下落しました。

当ファンドでは引き続き、将来への予測に依存することなく幅広く投資を行うことでリスクを分散しながら、皆様の長期的な資産形成に資することが出来るよう努めて参ります。

※変動要因については、右側の図1、図2もご参照下さい。

※ファンドの基準価額は原則として2営業日前の株式・債券市場の終値を反映しています。

運用部長 瀬下 哲雄

図1 2月度の投資先ファンド価格の変動による影響
※月末の投資比率に基づく概算値/投資先ファンド通貨建て

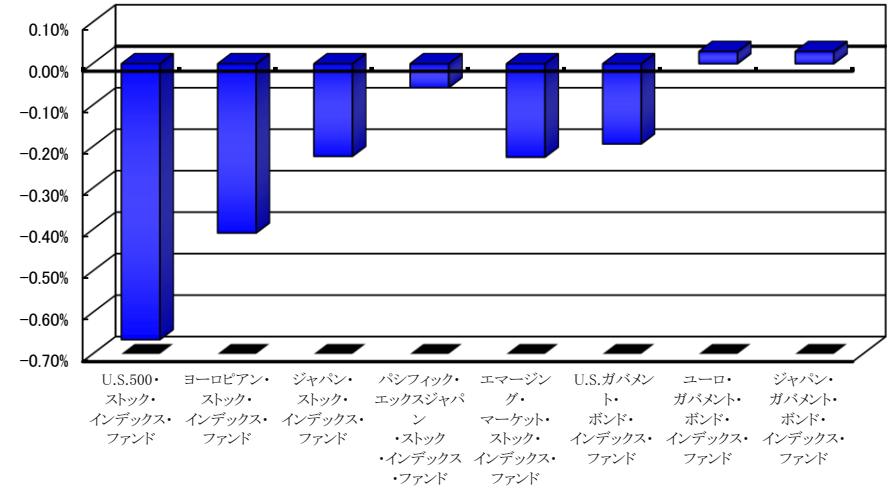
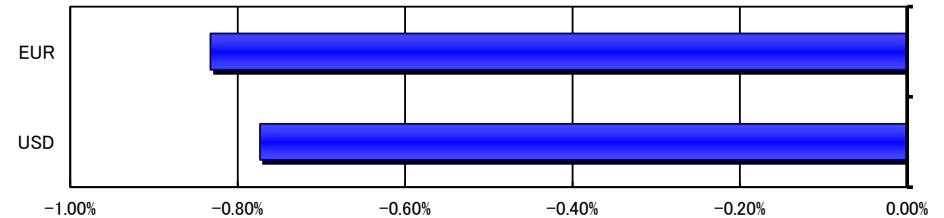


図2 2月度の為替変動による影響
※月末の投資比率に基づく概算値



※上記の表は、投資家の皆様へファンド基準価額の変動要因を簡潔に説明するため2018年2月28日現在の投資比率に基づき、ファンド及び為替レートの変動の影響を図示したものであり、実際の影響度合いとは異なります。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
2 月度運用レポート

I：ファンドの基準価額と純資産総額の推移

2018年2月28日現在の基準価額と純資産総額及び騰落率

基準価額	14,295円
純資産総額	1548.9億円

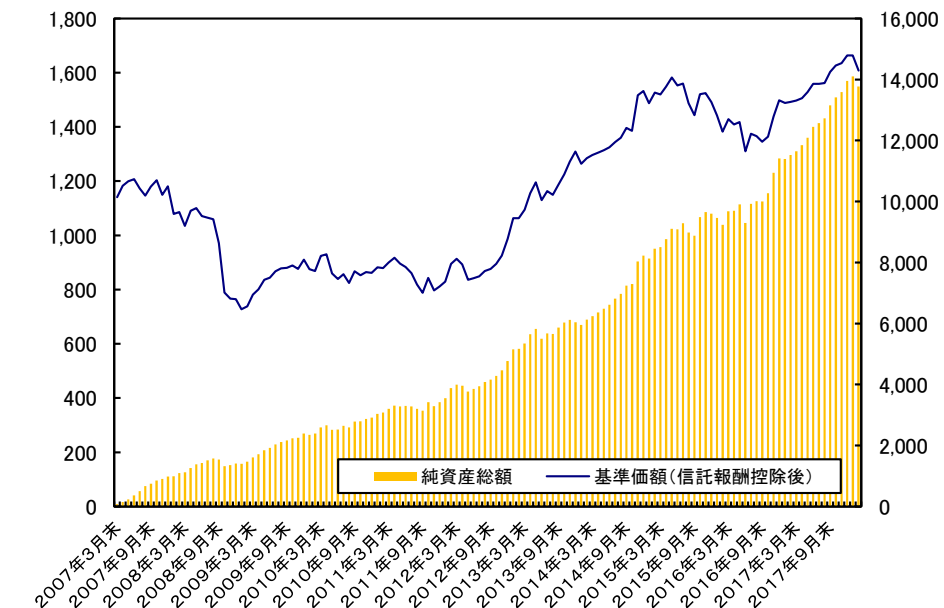
設定来騰落率	42.95%
過去1ヶ月間の騰落率	-3.34%
過去6ヶ月間の騰落率	2.95%
過去1年間の騰落率	7.76%
過去3年間の騰落率	5.31%

*基準価額は信託報酬控除後の数値です。騰落率は小数点第3位を四捨五入しています。

基準価額のハイライト（設定から2018年2月28日まで）

	基準価額	日付
設定来安値	6,275	2009年1月26日
設定来高値	14,980	2018年1月9日

純資産総額(億円) 基準価額と純資産総額の推移(設定来/月次) 基準価額(円)



当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 2 月度運用レポート

販売用資料
2018.3.5

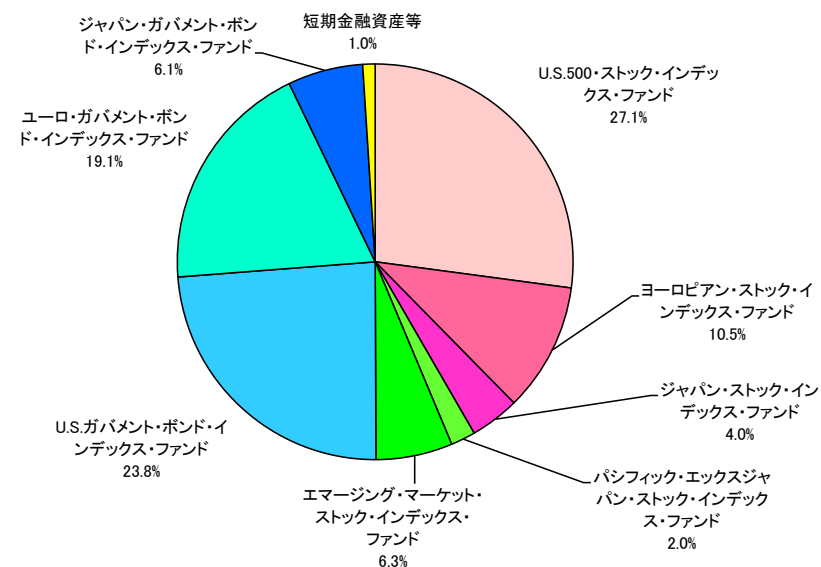
Ⅱ：ファンド資産の状況（2018年2月28日現在）

投資先ファンド別資産配分状況

ファンド名称	比率
U.S. 500・ストック・インデックス・ファンド	27.1%
ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	10.5%
ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	4.0%
パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	2.0%
エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	6.3%
U.S. ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	23.8%
ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	19.1%
ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	6.1%
短期金融資産等	1.0%
合計	100.0%

※資産配分状況は小数点第2位を四捨五入している為、合計が100%にならない場合があります。

資産配分状況(2018年2月28日現在)



当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 2 月度運用レポート

販売用資料
2018.3.5

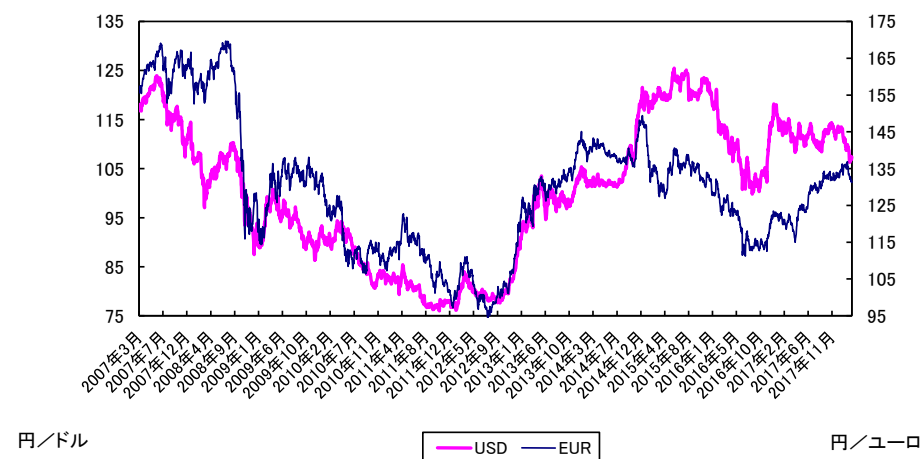
Ⅲ：為替レートの推移

設定時からの為替レート

日付	円／ドル	円／ユーロ
2007年3月15日	117.27	155.09
2007年12月28日	114.15	166.66
2008年12月30日	91.03	127.96
2009年12月30日	92.10	132.00
2010年12月30日	81.49	107.90
2011年12月30日	77.74	100.71
2012年12月28日	86.58	114.71
2013年12月30日	105.39	145.05
2014年12月30日	120.55	146.54
2015年12月30日	120.61	131.77
2016年12月30日	116.49	122.70
2017年1月31日	113.81	121.75
2017年2月28日	112.56	118.98
2017年3月31日	112.19	119.79
2017年4月28日	111.29	120.85
2017年5月31日	110.96	123.95
2017年6月30日	112.00	127.97
2017年7月31日	110.35	129.65
2017年8月31日	110.42	131.34
2017年9月29日	112.73	132.85
2017年10月31日	113.16	131.76
2017年11月30日	112.05	132.81
2017年12月29日	113.00	134.94
2018年1月31日	108.79	135.08
2018年2月28日	107.37	131.28
変化率（設定来）	-8.44%	-15.35%
変化率（2月度）	-1.31%	-2.81%

※変化率はプラスが円安、マイナスが円高。小数点第3位を四捨五入

2007年3月15日から2018年2月28日までの為替レートの推移



※投資信託協会発表の評価用為替レートを使用して作成しています。

当ファンドは、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

IV：投資先ファンドの価格（円貨建て）

① 主に株式へ投資するファンドの値

ファンドへの組入れ開始日の値を 100 とした場合の 2018 年 2 月 28 日現在の値

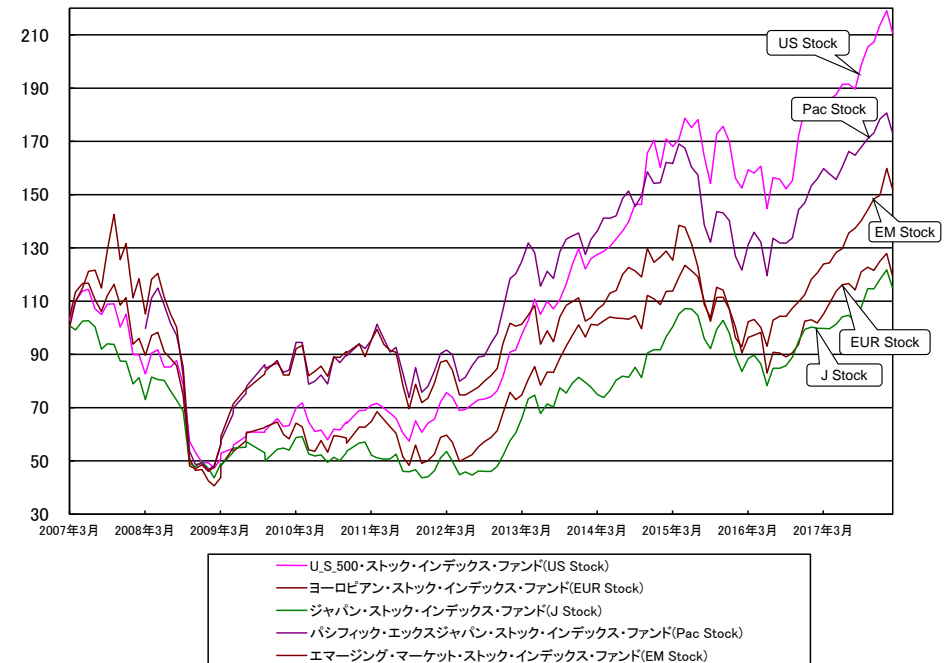
U. S. 500・ストック・インデックス・ファンド	210.8
ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	119.5
ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	115.0
パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	173.2
エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	152.1

2018 年 1 月 31 日の値を 100 とした場合の 2018 年 2 月 28 日現在の値（2 月の動き）

U. S. 500・ストック・インデックス・ファンド	96.3
ヨーロッパ・ストック・インデックス・ファンド	93.4
ジャパン・ストック・インデックス・ファンド	94.5
パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド	95.9
エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド	95.1

※指数は小数点以下第 2 位を四捨五入

組入れ開始以来の投資先株式ファンドの値の推移（円貨建て）



エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド、ジャパン・ストック・インデックス・ファンドは 2007 年 3 月 23 日、パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンドは 2008 年 3 月 14 日、それ以外のファンドは 2007 年 3 月 19 日の値を 100 として算出しています。価格が外貨建てのファンドは、投資信託協会発表の評価用為替レートを利用して円に換算し、指数を算出しています。（日付は全て当ファンドでの評価日付です。）

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド
2 月度運用レポート販売用資料
2018.3.5

② 主に債券へ投資するファンドの値

ファンドへの組入れ開始日の値を 100 とした場合の 2018 年 2 月 28 日現在の値

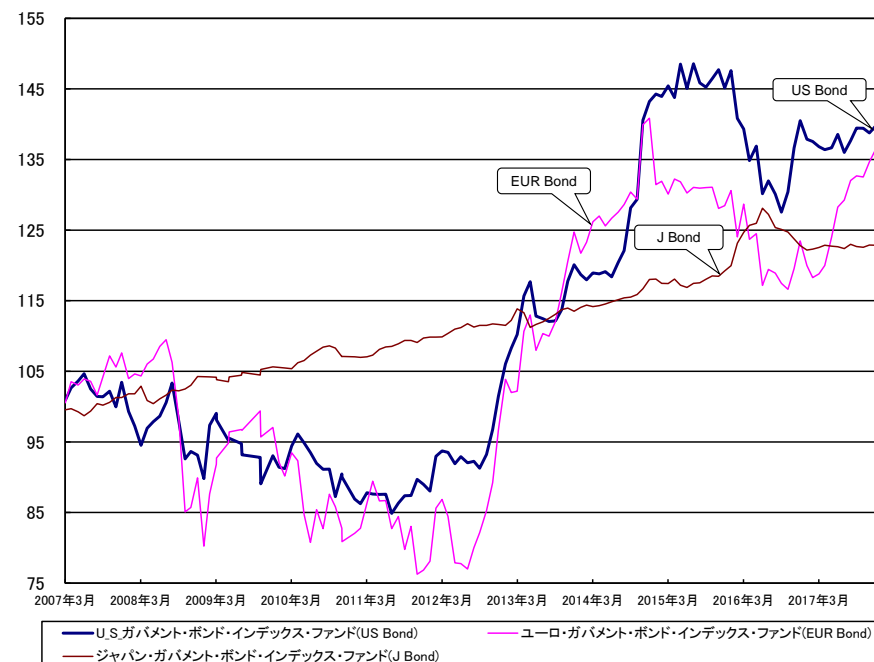
U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	130.0
ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	131.4
ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	123.3

2018 年 1 月 31 日の値を 100 とした場合の 2018 年 2 月 28 日現在の値（2 月の動き）

U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	97.9
ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	97.3
ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド	100.5

※指数は小数点以下第 2 位を四捨五入

組入れ開始以来の投資先債券ファンドの値の推移（円貨建て）



ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンドは 2007 年 3 月 23 日、それ以外のファンドは 2007 年 3 月 19 日の値を 100 として算出しています。価格が外貨建てのファンドは、投資信託協会発表の評価用為替レートを利用して円に換算し、指数を算出しています。（日付は全て当ファンドでの評価日付です）

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

■ファンドの特色

- ①幅広いリスク分散
世界 30 ヶ国以上の株式と 10 ヶ国以上の債券に分散投資。だからリスクを分散して安定的な成果が期待できます。
- ②国内最低水準の手数料
販売手数料ゼロ。購入時に余分なコストのかからないノーロードファンドです。同じタイプのファンドの中では国内最低水準の手数料を目指しました。
- ③バンガード・グループのファンドに投資するファンド・オブ・ファンズ
バンガード・グループは世界最大級の投信会社です。また、ローコスト・ハイクオリティ運用のリーダーとして認められています。投資家の利益を守るため、長期投資の重要性を訴え続けています。
- ④長期投資の為のファンド
長期のパフォーマンスを最優先するため、分配金は全て再投資します。

■投資方針

- ①株式と債券の投資比率は、原則として 50 : 50 とします。
 - ②各地域の株式及び債券の時価総額を勘案し、投資先ファンドへの投資配分を決定いたします。配分比率は適宜見直しを行っていきます。
 - ③原則として、為替ヘッジは行ないません。
- ※資金動向、市場動向ならびに信託財産の規模等によっては上記の運用が出来ないこともあります。

「Vanguard」(日本語での「バンガード」を含む)及び「tall ship logo」商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社及び承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. 及び Vanguard Investments Japan Ltd より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。従って、The Vanguard Group, Inc. 及び Vanguard Investments Japan Ltd は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

■組入れファンドについて

- ①U.S.500・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：米国の大型株式に投資します。
運用方針：S&P500 Index に連動する投資成果を目指します。
- ②ヨーロピアン・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：欧州先進国の株式に投資します。
運用方針：MSCI Europe Index に連動する投資成果を目指します。
- ③ジャパン・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：日本の株式に投資します。
運用方針：MSCI Japan Index に連動する投資成果を目指します。
- ④パシフィック・エクスジャパン・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：日本を除くアジア太平洋地域の先進国の株式に投資します。
運用方針：MSCI Pacific ex-Japan Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑤エマージング・マーケット・ストック・インデックス・ファンド
主要投資対象：新興諸国の株式に投資します。
運用方針：MSCI Emerging Markets Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑥U.S.・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
主要投資対象：米国の国債および米国の政府系機関が保証発行する投資適格債券等に投資します。
運用方針：Bloomberg Barclays U.S. Government Float Adjusted Bond Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑦ユーロ・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
主要投資対象：EMU(経済通貨同盟)に加盟するユーロ建ての国債等に投資します。
運用方針：Bloomberg Barclays Euro Government Float Adjusted Bond Index に連動する投資成果を目指します。
- ⑧ジャパン・ガバメント・ボンド・インデックス・ファンド
主要投資対象：日本国債および日本の政府系機関が保証発行する投資適格債券等に投資します。
運用方針：Bloomberg Barclays Japan Government Float Adjusted Bond Index に連動する投資成果を目指します。

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド 2 月度運用レポート

■お申込みメモ

- お申込受付日：原則として、毎営業日にお申込を受付けます。ただし、ニューヨーク、アイルランドの銀行休業日、ニューヨークの証券取引所休業日のいずれかに該当する日には受付を行いません。
- お申込受付時間：原則として、午後 3 時までに受付けた申込みを当日の申込みとします。
- お申込価額：取得申込日の翌々営業日の基準価額
(当初元本は、1 口あたり 1 円)
- お申込単位：1 万円以上、1 円単位
定期積立プランの場合は 5 千円以上 1 千円単位
- 購入時手数料：ありません
- ご解約受付日：原則として、毎営業日にご解約の請求を受付けます。ただし、ニューヨーク、アイルランドの銀行休業日、ニューヨークの証券取引所休業日のいずれかに該当する日には受付を行いません。
- ご解約請求受付時間：原則として、午後 3 時までに受付けた解約請求を当日の請求とします。
- ご解約単位：1 口以上、1 口単位 または 1 円以上、1 円単位
- 解約代金のお支払い：原則として、解約請求受付日から起算して 6 営業日目にお支払いします。
- 解約価額：解約請求受付日の翌々営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額。
- 信託財産留保額：0.1%
- 信託設定日：2007 年 3 月 15 日
- 信託期間：無期限
- 決算日：毎年 1 月 2 月 1 0 日（休業日の場合は翌営業日）
- 収益分配：決算時（年 1 回）に収益分配方針に基づき、分配を行います。（基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行わないことがあります。）当ファンドは分配金再投資専用のため、分配金は税金を差し引いた後、自動で再投資いたします。
- 課税関係：収益分配時の普通分配金ならびにご解約時および償還時の譲渡益相当額（法人の場合は個別元本超過額）に対して税金※が課せられます。
※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。税法等が改正された場合には、上記内容が変更になる場合があります。

■当ファンドに係るリスクについて

当ファンドはファンド・オブ・ファンズであり、主として投資信託証券に投資を行います。当ファンドは、株式や公社債を実質的な主要投資対象としており、株式や公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また当ファンドは外貨建資産に投資し、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受け、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」や「為替変動リスク」、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時点での記者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮しておりません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。

■当ファンドに係る手数料等について

お客様には以下の費用をご負担いただきます。

◆購入時に係る費用

購入時手数料はかかりません。

◆解約時に係る費用

解約手数料はかかりません。なお、解約受付日の翌々営業日の基準価額に対して 0.1%の信託財産留保額が控除されます。

◆保管期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬

ファンドの純資産総額に年 0.4968% (税抜 0.46%) の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的に受益者の方にご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年 0.68%±0.03% (概算) となります。

その他の費用・手数料

当ファンド：

監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等。監査費用を除くその他費用・手数料は、そのつど信託財産から支払われます。

投資対象とする投資信託証券：

- ・投資対象国、市況の変化、あるいは制度の変更等を考慮し、バンガードが定めることにより、購入時及び解約時にファンド財産維持手数料がかかることがあります。
- ・ファンド財産維持手数料とは、当ファンドの信託財産から買付もしくは換金(解約)した際に、ファンド自身に、直接支払われる留保金であり、販売手数料や解約手数料とは異なります。

※これらの費用は、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限等を表示することが出来ません。

※投資家の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

ダウ・ジョーンズ工業株価平均、S&P500、S&P/ASX200 指数、S&P/BSE SENSEX インデックスは、S&P ダウ・ジョーンズ・インデックス (S&P DJI) の商品です。これらの指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、S&P DJI に帰属します。

S&P DJI は当指数等の情報に関し、その正確性・妥当性・完全性あるいは入手可能性を保証しません。また、S&P DJI は当指数等の情報の誤り、欠落についてその理由のいかんにかかわらず責任を負いません。また当指数等の使用による結果に対しても責任を負うものではありません。S&P DJI は当指数等の商品性あるいはその使用または特定の目的に対する適合性を含みますが、それに限定されるわけではなく、一切の明示的あるいは黙示的な保証を否認します。S&P DJI はファンドの受益者や他の人物等による当指数等の使用に関連したいかなる間接的、直接的な、特別なあるいは派生的な損害、費用、訴訟費用あるいは損失(収入の損失、利益の損失、機会費用を含む)について一切の責任を負いません。

委託会社：セゾン投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 349 号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
<https://www.saison-am.co.jp/>

お客さま窓口 : 03-3988-8668 営業時間 9:00~17:00 (土日祝日、年末年始を除く)

当資料は、受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的として、セゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当該投資信託の取得を希望される方は、必ずセゾン投信が提供する投資信託説明書(交付目論見書)の内容を十分お読みいただき、ご自身でご判断下さい。

当資料は、信頼できると判断した情報により作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通しは、作成日時時点での記述者あるいは当社の見解を示したものであり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告無く変更されることがあります。当資料に記載された数値やデータは過去の実績を示すもので、将来の運用成果を保証するものではありません。また税金・手数料等の費用を考慮していません。投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により異なります。外国証券には為替リスクもあります。従って元本保証はありません。